

刻む会 たより

No.40
追悼式特集号

2010. 3. 6

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 015990732405

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 013709986003

振込先 名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会
振込先 名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金
ホームページ <http://chouseikizamukai.hp.infoseek.co.jp/index.html>

『長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑』
建立委員会(仮称) 設立にあたって

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

この度、長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会において、長年の懸案であった「追悼碑」建立用地につき、床波漁港のすぐ近くのピーヤ(排気竪坑)を望むことのできる、私共の希望に適した土地を得ることが出来て、いよいよ追悼碑建立に対して具体的なプラン策定や募金活動等の行動を起こす時がきました。

あの一九四二(昭和一七)年二月三日の水没事故が起こって、すでに六八年の歳月が過ぎ去っています。

そこで、「刻む会」といたしましたのは、

新しい力と、知恵と、国際的感覚等々を持った方々の力を結集して、歴史の歳月に耐え得る追悼碑を建立する事が出来るように、『長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑』(仮称)建立委員会を新たに立ち上げることになりました。

この度の「追悼碑」建立委員に申し込みに戴いた方々は、私どもの願いを実現するにあたり、一緒に活動できる大変頼もしい方々であると確信いたしております。

「追悼碑」建立の此の地が、過去・現在・未来において日本と朝鮮半島・アジア、そして全世界の人々との友好を繋ぐ「交流の場所」となることを心より願っています。

二〇一〇年三月一日

第1回「長生炭鉱水没事故犠牲者 追悼碑建立委員会」(仮称)開催のご案内

日時：2010年4月2日(金) 18:30~20:30

場所：宇部市総合福祉会館3階講習室

(JR宇部線琴芝駅前)

宇部市琴芝町二丁目4番20号

建立委員及び賛同人になってくださった方には、ご案内を別途送付しております。申込が未だの方で、建立委員会に参加ご希望の方は、その旨事務局までご連絡の上、当日ご来場ください。

長生炭鉱水没事故六八周年追悼式と市民交流集会

追悼碑建立予定地ではじめての開催

― 追悼碑建立予定地ではじめての開催 ―

九州市 ■ 内岡貞雄

《宇部市長からのメッセージ届く》

二〇一〇年一月三十一日（日）午後二時から長生炭鉱水没事故六八周年追悼集会在床波の地で行なわれました。「刻む会」が二〇〇九年四月二日に九四坪の土地を入手）当日は「涙雨」のような小雨模様でしたが、炭鉱事故を想起させる二本のピーヤ（排気竪坑）を望みながら、遺族の方々をはじめ在日の皆さんや日本人の支援者の方々約一〇〇名が参加して、しめやかに行なわれました。

今回の追悼式では、土地取得の推移と遺族招聘が三名になったこと等を含めた経過報告を小畑事務局長が説明しました。建立委員会の立ち上げに参加いただける皆さん、賛同者の方々、そして募金の協力をいただける皆さんには参考になったと思います。また、今回の追悼式には宇部市長（久保田后子氏）の参

加は実現しませんでした。はじめて市長のメッセージが届き、宇部市の行政もようやく「刻む会」の取り組みに前向きな関心を持ってくださっていることが伺えました。同時に、マスコミ報道も用地取得で追悼碑建立計画の進展が期待できるとい内容でした。これからの追悼碑建立に向けて大きな足跡がつく追悼式になりました。

《一九年間、追悼式を陰で支えてくださる桜井葬儀店に感謝》



追悼式で挨拶する金遺族会会長

今年は一九回目の「刻む会」主催の追悼式でした。その間ずっと桜井葬儀店様には Tent・ブルーシート・テーブル・椅子・ストロボなどの用品借用とセッティングのお世話をしていただいています。本当に感謝の気持ちで一杯です。

ご存知の方もおられると思いますが、

韓国の天安市（チョンヌ）に「望郷の丘」（一九七六年竣工、

一九八三年に国営化）があります。ここは第二次世界大戦中（実際は一九三九年九月以降）、日本に強制連行され犠牲となった韓国人（朝鮮人）の無縁遺骨が県単位で合同埋葬されており、一九七五年ごろから民団等の支援によって造営がはじまった場所です。日本国内から搬送された無縁遺骨の総数は八八〇七埋葬数になりますが、山口県は三五五埋葬数にのぼり、一九八四年から三年間（三次計画）で無縁遺骨の収集および搬送を行なってきました。宇部市の明治町にある桜井葬儀店は第一次無縁遺骨搬送（一九八四年）の際、宇部市内の数ヶ所のお寺に安置されていた遺骨を収集し下関港まで搬送したということです。その時の感謝状がお店の壁に掲載されています。このことを知った「刻む会」の山口代表が、

長生炭鉱の追悼式に用品借用を申し出て快諾されたのがそもそものきっかけになりました。桜井葬儀点様には一九年もの長きにわたり本当にお世話になってきましたし、これからこのつながりを私たちは大事にしていかななくてはならないと思います。

《今なお、一八三名の犠牲者は冷たい海の底に遺棄されたまま》



用地入手の場所で行なわれた 68 周年追悼式

今回の遺族の皆さんは金亨洙遺族会会長

と楊玄副会長、そして山口代表と同級生の

全錫虎さんの三名でした。三名の方々の深い

思いは、宇部市役所や山口県庁の表敬訪問でその一端を垣間見ることができました。

ここでは年長者の全錫虎さんの思いに触れてみようと思います。

全錫虎さんが犠牲者の全聖道氏の息子さ

んとしての証言を述べておられます。(二〇〇

五年四月)炭鉱の水没事故は全錫虎さんが西

岐波小学校五年の時のことでした。アボジ(父)を喪った後、長生炭鉱の社宅を追い出

され、知人宅の馬小屋で全錫虎さん一家は苦

しい生活をしました。事故前は、母が長生炭鉱の石炭運搬のトロッコを押している姿をよく見たものでしたが、父がいなくなった後は一家を支えるために屑鉄拾いや重い物を運ぶ重労働、あるいはやみのお酒を造って収入を

得ていました。戦後、韓国に渡った後も苦勞

の連続で、特に全錫虎さんは日本で育ったた

めに言葉が通じなくて苦労しました。一五歳(今の中三)の時に夜学でハングル語を猛勉強したといいます。

追悼式当日、全錫虎さんが長生海岸で沖の

ピーヤに向かって「アボジー!アボジー!今、アボジらの無念さがすくわかります」と何度も何度も大声で叫んでおられたのが耳に残っています。

《在日の方々と朝鮮半島の人々は深くつながっている》

全錫虎さんと裴東録さんは韓国の郷里が

同じということです。全錫虎さんはいま大邱

にお住まいですが、郷里は陝で裴東録さんと

同じです。今回の追悼式に参加されていた姉

の裴東先さんは陝川生まれで、一九四一年(東



長生海岸でピーヤを見つめる遺族の皆様

仲であることが今回の交流会を通してわかりました。在日の方々と朝鮮半島の人々は深い絆があることを改めて感じさせられました。

《ピーヤの保存を》

遺族の皆さんと市民の方々総勢二二名は追悼集会の翌日の二月一日（月）に宇部市役所と山口県庁を表敬訪問しました。従来はややもすると形式的な訪問という感もあったそうですが、用地入手した二〇一〇年からは、追悼碑建立に関して積極的な働きかけが行政側に対して必要になります。とりわけ地元の宇部市役所とは継続した話し合いの場を持たなくてはなりません。

一九九六年に文化庁が行なった山口県近代化遺産一覧（資料：山口県教育庁文化財保護課編「山口県の近代化遺産」一九九八年発行、P二七七）によると、宇部の旧長生炭坑排気竪坑が県の近代化遺産の指定を受けています。この指定はピーヤを一方的に取り壊しはできないわけですが、ピーヤの管理・保存までの規定は適用されないのです。「刻む会」（建立委員会）として、今後、県あるいは宇部市の「産業遺産の指定」を受け、ピーヤの管理・保存が持続できるように的を絞った取り組み

が求められていると思います。

石橋上人

ピースウォークの途中で 長生炭鉱に立ち寄る

二月十四日、ピースウォークの石橋上人（日本山法妙寺住職）さん、仲間の皆さん及び「刻む会」山口代表と私の五人と共に、長生炭鉱本坑口前で読経を上げていただき、一八三名の冥福と一日も早い追悼碑建立を祈りました。



本坑口で読経中の石橋上人

セホン
チョンソク
世憲さんと全錫虎さんの叔父さんが旧知の

先（ソ）さんが七歳の時）に母親と三人の兄弟と一緒に八幡に渡って来たのです。お二人が海岸でしっかりと手を握り合い、再開をとても喜んでいる深い訳がようやくわかりました。また、「刻む会」のオブザーバーとして事務局会

議にも参加されたことのある周南市在住の呉（オ）

遺族の証言

犠牲者名 全 聖 道(チョンソンド)
遺族・息子 全 錫 虎(チョンソッコ)



遺族・全錫虎 氏

に衝撃と苦しみと悲しみを与えました。父は私たちを残してあの世へ逝ってしまっただけでした。

当時、私は十一歳 小学校五年生でした。父が亡くなった後、残された私たち家族は災害補償も貰えず、それまで住んでいた住宅も奪いとられてしまいました。母はありとあらゆる手段を使つて、家だけは取り上げないように頼んだのですが、容赦なくすぐに追放となりました。その時、炭鉱で私たちを追い出した日本人の姿は今でも忘れること出来ません。

住む家もなくなり食糧さえもなくなり、途方に暮れる私たちを助けてくれる人は、誰一人としていませんでした。仕方なく、私の友達の家の馬宿を修理して生活を始めました。母は、生計を立てる為に重労働をしたり、不法とされていたお酒を造って売りながら、私たち五人兄弟を育てたのです。

それから解放(終戦)を迎えました。私たちはほかの人たちのように解放を喜ぶことができませんでした。それは、これからが私たち家族にとって第二の苦労のはじまりだったからです。

故郷 韓国に帰ってきたからといって私たち家族を歓迎してくれる人は誰もなく、住む家さえも無かったのです。当然食糧にも困り果て、当初、母は持っていた服を売り、米を買っていました。しかし、もうこれ以上どうすることも出来なくなった母は、私たち兄弟をそれぞれ別々の住み込み奉公に出すことにしました。

私は十四歳でした。他の友だちが親元から学校に行く姿を見ながら、自分の姿と照らし合わせました。山に行つて木を拾う仕事をしている惨めな自分・・・

もし日本にいたならば学校にも通っていたはずなのに・・・なぜこんなに苦労ばかりしなければならぬのだろうか？私は泣いて泣いて泣きながら父を恨みました。でも父には何の罪も無いのです。悪いのは日本という国です。私たちから平和を奪い、恨みだけを残したのです。くやしくて恨んでも恨んでも恨みきれません。同時に、長生炭鉱も私たちの恩讐になったのです。

山口県宇部市にある民間団体“長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会”の方々が毎年私たちが遺族達を現地に招き、追悼式をしてくださっています。私はその追悼式に参加す

一九四二年二月三日午前十時 長生炭鉱
水没事故による父の知らせは、私たち家族

る度に、海にそびえ立っているピア（排気口）を見てみると、「ソッコ 苦勞をかけてすまない。許してくれ」という、父の声が聞こえてくるように思えてなりません。

私たち家族も口では言うことの出来ない程の苦勞を通してきましたが、私たちを置いて逝かなければならなかった父の心残りの方が大きかったのだと今になって分りました。母は三十三歳で未亡人となり、これ以上の苦勞はないというくらいの苦勞をして生きてきた人です。その母も二〇〇四年十二月二十七日 九十六歳であの世へと旅立ちました。父の遺骨を見つけたせない心残りがあったのでしょうか。最後の最後まで目を閉じることが出来ませんでした。

直系の遺族者たちのほとんどが高齢を迎えました。私たち遺族が毎年追悼式の時に県庁、市庁を訪問して様々な要求を出したとしても、今だに何一つ実現されていません。どうか一日も早く正式な場所に慰霊碑を建て、犠牲者達の霊を慰めることが出来るよう切に願ってやみません。

二〇〇五年

四月

市民交流集会場にて

右から チョンソク コ 全 錫虎さん、
キムヒョンス 金 亨 洙会長、
ヤンヒュン 楊 玄 副会長、内岡さん



チョンソク コ 全 錫虎さんと オ セ ホン 吳 世憲さん



海岸にて 遺族と追悼式参列者



県庁にて 遺族と「刻む会」のメンバー

19回に参加して

ことばの壁を「想像力」で越える。

1937（昭和12年）生まれ

呉^オ 世憲^{セホン}

昨年 念願だった18回追悼会に参加しう
れしい時間を持てたので来年は泊り込みでこ
うと決めていました。追悼会を楽しみにと
はいささか不謹慎でしょうが私なりの理由が
ありました。山口朝鮮高校の生徒だった次女
が追悼会に出席したのは15年くらい前の事
で、このときに「長生」を始めて知りました。
日曜日が稼ぎ時の仕事から離れた昨年、必ず
一度はとの思いが実現しました。遺族12
名を招いたと聞き 個々人の通訳など少しは
お役にたてるかもと着替えも準備して小畑さ
んの車に便乗しました。現地に着いたらすぐ
に銀行OBの朴君が駆け寄ってきました。毎
年来ていと言い 奥さんは自分の家のジェ
サがひとつ増えたように2、3日前からあれ
これ準備を始めるようで そのときちょうど
テントの下でお供え物をならべていました。
遠くから目で挨拶しまわりを見回すと旧知の
同胞たちが地元はもとより下関からも来てお
り 彼らのほうが「どうしたの？」と言わん

ばかりに近づいてきました。在日社会で公式
に同じ場に立つことの極めてまれな韓国民団
の幹部もいて静かに開式を待っていました。
少年時代に結婚式や還暦祝いで見たような

「同根」の人たちの集まりの中に日本人がま
ざっているような錯覚を起こさせる風景がそ
こにあり胸が熱くなりました。刻む会の活動
がもたらした副産物は 私にとって「理想の
在日」の姿でもありました。数日前の朝日新
聞に関東大震災時に殺された朝鮮人慰霊碑が
荒川沿いに建てられたエピソードありました。
私が知らなかっただけでしょうが こんな
風景があらちここにあったのですね。

私などがしやしやり出る必要はまったくな
いほどに役者はそろっていました。この地に
暮らす毎日こそ心に刻まねばならないと言う
当事者意識と 責められなくとも自国の歴史
に刻んでおこうとし続ける日本人への感謝の
表れだろうと思いました。

うれしさを胸に 帰日も又 小畑さんのお
世話になりました。1年たつてなお「ありが
とう」以外の言葉を捜せないでいます。

気持ちを含めて今年には泊りがけにしました。
水非常の時代をまねいた朝鮮国は事大主義
の雲におおわれ 気がつけば日本の植民地で
した。

植民地収奪はふるさとでの生活を破壊し

多くの朝鮮人を間接的には募集、直接的には
徴用で日本や満州に向かわせたのでしよう。
08年 生まれ故郷と戸籍にしろされた慶
尚南道密陽市の片田舎668番地を訪ねまし
た。

封建社会の最下層の身分の父は 自ら故郷
を捨てたようでした。誰の知恵なのかは分か
りませんが徴用をさけるため基幹工場である
日立（下松）の砂落とし現場で日本人の半分
の給料で働いたと聞きました。遺族たちと同
世代として複雑な感慨をおぼえます。

日本の敗戦後もなんらかの理由で残留した
人たちが「在日」ですが 時代とともにその
呼称もさまざまに変化して来しました。母国に
対する知識があるうとなかろうとその血を意
識して生きているのが同胞、すなわち「在日」
です。追悼会での同胞のありようは さまざ
まな場（日常から経済、政治）に広がってほ
しいものです。

いまだ海底に横たわる人たちは 眠りにも
つけず話し合っているのでしょうか。それと
も全員が「碑建立」に苦闘する人たちをほほ
えんで見守ってくれているのでしょうか。

3、4年ほど、徳山でお付き合いのあった
小畑さんの転任と事務局長就任もあり 各家
族の顔が見たくなった頃 刻む会が集まりを

持つとの知らせが届きました。山口先生や会の方々にお眼にかかりたくもあつて、昨年夏の終わりの「会合」に参加しました。

山口先生にもお目にかかれ短い時間でしたがお話も出来ました。あつい会合の空気で胸をいっぱいしながら「土地」取得や碑文のことなどが熱心に話し合われる場を共にしました。

特に韓国遺族会に出席された堤さんの報告文は「心の中にある感情、発せられた言葉、翻訳された言葉」のかすれ具合の蓄積がうみだしたもので大変せつなく読みました。

翻訳の技術的な問題ではないだけに感情を汲み取ろうとする同世代から資料などから感情を理解する世代へとかわりの進むこれから大きな課題となりましょう。

近い外国、韓流、ドラマ、本名宣言等、出会いの機会がふえているだけにたがいに想像力をはたらかせ相手の立場にたってみる事が出来るチャンスとも思えます。

私自身は日本語で考え話します。私の朝鮮語は日常性がなくほとんどさび付いていますが文字や話の間を埋める作業に少しでも役立てればと思いますし血の濃さがそれを助けてくれるでしょう。

県庁での昼食のとき偶然全錫虎さんと隣り合わせになりました。亡くなられたお母

さんの弟さんが解放後まもなく下松市から一枚の写真を送ってこられそれ以後音信不通になったそうです。お母さんはその後の写真一枚でも欲しいとお亡くなりになる直前まで言っておられたそうです。

心あたりはありましたが全さんには「ともかく探してみましよう」と言いました。早速調べてみたところ弟さんは亡くなられていましたが息子さんには会えました。「ビツクリ」した息子さんでしたがいくつかの提案があり全さんにはそれを伝えました。時間はかかっても全錫虎の希望は叶えられそうです。

聞きはしませんでしたが「何回も来ているのに誰かに頼まなかったの?」とは思いました。

「金会長」は帰郷(多分宇部から)したときまったくの日本人で韓国語の読み書きなど全然できず日本語を忘れる努力(本人の表現)を懸命にしたそうです。その結果小学4年生まで自由に話していた日本語はまったく話せないと言いました。同時に日本時代の記憶そのものもなくなったといえます。

韓国在住の私の従兄弟が来日した時住んでいたところ遊んだ場所通った学校にも連れて行きましたがまったく記憶がないとい

ったことがありました。「そんな馬鹿な」と笑ってしまいましたが金会長にとっては空白の十数年の上にピーヤがあると思うと水没時点の記憶について聞くことが出来ませんでした。

「想像力」を働かせて相手の立場に立ってみる。簡単ではありませんでした。

私に出来ることを考え実践しなければなりません。「建立委員会趣意書」「刻む会たより38号」の一節にでも賛同する人を含め協力を得ようと思っています。

刻む会「会報」も最初のほうを読んでみたいと思います。古くから「刻む会」に関わってこられた方々はその胸のうちに碑がありさまざまな機会に刻み続けてこられたことでしょう。

私もまた私なりの理由での刻むべき石をもつて参加しようと思います。それらの思いの積み重ねが「追悼碑」でしょうから。

20回追悼会には私の車に同乗者がいて何通かのカンパの封筒を預かって行きたいと思っています。(終)

追悼碑建立募金会計報告（2009年4月21日〔土地購入〕～2010年2月28日）

収 入			支 出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
カンパ	1,776,813	106 件	事務費	6,760	
雑収入	3,000		管理費	1,195	
借入金	6,000,000	「刻む会」事務局員より （※注1）	雑支出	4,225	
繰入金	1,430,000	「刻む会」募金会計より （※注2）	建立費	7,597,130	上地取得・更地工事費
			残高	1,600,503	
合 計	9,209,813		合 計	9,209,813	

※注1：土地取得費として ※注2：更地工事費として

《献金者》五十音順（回数）

（個人）赤間至 秋好美恵 麻野他郎 綾野礼矣子 李陽雨 市川和子 猪股健太郎・かをる
猪股清子 上野智子 浮田正夫 内岡貞雄 浦部頼子 呉世憲 大岡勝義 大隅督子
大西末子 岡田淳子 田美代子 岡本愛子 片岡賢士 金庫正善 神谷顕史 神谷丹路
川上和恒 岸高久徳 木原千成 金栄秀 木村和彦 熊谷仲美 河内山宏司 斉藤秀子
斉藤美代子 佐藤妙子 実国義範 篠原智 鈴木激 澄田亀三郎・典枝 関谷陽子 高橋靖子
田村務 張毅久 辻一浩 戸井雄二 戸井幸子 殿河内恭子 殿河内純子 鳥家治彦
鳥野小百合 中島郁子 中野江里子 永野哲夫 中林康江 中村満吉 那須美佐子 野村豊子
朴唯新 羽鳥玲子 花田実 原くに子 韓屋洙 東島勇人 福島直子 福原孝浩 藤井和義（3）
牧野哲 三賀森栄子 光成和正 宮本弘 森山武昭 矢儀典子 矢儀保子 山内弘恵
山下睦子 大和裕美子 山本勝己 盧治芳 和田方義 匿名（3）その他集会等カンパ（4）
（団体）憲法9条の会うべ 在日本大韓民国民団宇部支部 在日本大韓民国民団
在日本大韓民国民団宇部支部有志（株）田辺商会 朝鮮総連宇部小野田支部 トラヂの会
日朝協会山口県支部 平和統一連合 平和統一連合中国地方本部 山口県地方本部
山口県労安センター（2）
（以下、日本基督教団）宇部教会 宇部緑橋教会 小郡教会 小野田教会 長門教会 防府教会
美祢教会 山口信愛教会

「刻む会」募金会計報告（2009年4月1日～2010年2月28日）

収 入			支 出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	2,659,685		事務費	68,524	「刻む会だより」2回発行含
カンパ	66,678	15 件	税金	210,000	上地・建物取得税
雑収入	7,200	物販	追悼集会費	213,853	
			雑支出	3,000	市民活動センター会費
			繰り出し金	1,430,000	追悼碑建立募金会計へ
			残高	808,186	
合 計	2,733,563		合 計	2,733,563	

《献金者》五十音順

（個人）井上洋子 緒方節子 沖村光子 木村和彦 古賀フミ子 佐々木明美 佐々木洋子 深田知夫
城和子 辻本恵美 野村孝子 山崎昌子 山野鈴子
（団体）宇部緑橋教会 周南市有志

※以上、感謝をもってご報告いたします。お名前の間違いや漏れがありましたらお詫び申し上げます。
お手数ですが、事務局までご連絡頂ければ幸いです。

～山口県知事及び宇部市長宛に要望書を提出しました～

旧長生炭鉱の水非常（水没事故）と排気竪坑（ピア）に関する要望

1. 水非常（水没事故）に関して

ご承知のとおり、私達の運動の始まりは、一つには、1942年2月3日に旧長生炭鉱において起こった水非常（水没事故）について、それが地元住民にさえも殆ど知られていないという事実に着目しています。しかしこのことは、それが「知られていない」ことにその大きな原因があります。

183名の犠牲者を出し、そのうち137名が朝鮮半島出身者であったというこの事故について、未だその遺骨は海底に放置されたままであるばかりか、その歴史的事実さえ知らされない、記憶しようとしていないことは、当然にその悲しみと痛みは消えることなく引き継がれていくのです。

こうした状況に鑑み「刻む会」は、1992年より毎年、長生炭鉱跡の海岸で遺族を招いて追悼式を開催し、近年では子ども達を中心としたフィールドワークを実施してきました。そして2009年4月には、この歴史の事実を刻む「追悼碑」を建立するための土地を取得し、今後、追悼碑建立に向けて更に運動を進めようとしている次第です。

しかしながらその一方で、この間、行政方よりは、私達の運動への直接的支援は勿論のこと、この歴史の事実に向き合おうとすること、それは同時に、現在もあり続ける遺族の痛みを覚えることに他なりません、そうした実践は、残念ながらほとんど見受けることが出来ませんでした。むしろ海岸に立って眼前に迫る排気竪坑（ピア）が一体何なのかを知らうとした時にさえ、その一端を知らせる立て看板一つすらないという事実は、「知らせるつもりがない」ということを物語ってしまっています。

こうした不作為は、いわゆる「村山談話」を引くまでもなく、責任ある立場にある者として、歴史の事実を謙虚に受けとめているのか、また国際交流を培っていくつもりがあるのかが問われるものです。

この歴史の事実を知らせることが為すべき務めであることをご理解頂き、今年こそは具体的な実践を切に望むものであります。

2. 排気竪坑（ピア）について

現存する排気竪坑（以下「ピア」）は、それ自体が歴史を物語り、それを見る人々に歴史の探究を促す重要な建造物です。しかしながら、現状においてそれらは放置されたままです。更には、防潮堤が築かれたことにより、その存在は人目から遠ざけられ、それに対する何の処置も為されないままです。

しかし一方、ピアは「山口県の近代化遺産一覧」（山口県教育庁文化財保護課編『山口県の近代化遺産 山口県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』1998年発行）の宇部市の覧に挙げられております。すなわちその歴史的重要性は、公に認知されているものということです。しかしその実際は、ただ日夜風雨と波浪に曝され続けているのみであり、前述したようにその歴史的意義を知らしめる行政努力は何ら為されていません。

この重要な歴史的建造物であるピアについて、早急に保護するべく、指定文化財とするなどの施策を講じて頂けるよう要望申し上げます。

2010年1月9日

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

2月1日 宇部市役所・山口県庁へ行ってきました

Q 歴史の事実を知らせることが行政の務め。宇部市としての具体的な実践は？

A これまでも「人道的立場」や「国際交流」、「国際親善」の観点から対応してきた。今後も、未来志向の交流が促進できるよう、できる限り取り組んでいきたい。



2010/02/01 09:41

Q 「刻む会」は市民の手で碑を建立するため土地を確保し、着実に進めている。県としてはどのように対応するつもりか？

A 県としては、宇部市と協調して協力していきたい。県としてできることは協力する。



2010/02/01 12:13



弔辞

ご参集のみなさま！！

私は長生炭鉱水没犠牲者大韓民国遺族会を代表して、六八年前の今日のこの日、あのすさまじい惨状と悲劇を歴史に告発し、亡くなられた方々の英霊を称えるため、この場にやってきました。

振り返ってみれば、日本の帝国主義の被害者はこの長生炭鉱の犠牲者ばかりでなく、私たちの故郷にはいちいち数えられないくらいたくさんいますが、亡くなられた方々を襲った逆巻く歴史の渦はまったくしざまじいばかりのものでした。

なかでもとりわけ胸の痛むことは、祖国大韓民国の国民として生を受けたにもかかわらず、日本の軍靴に踏みつけにされたことであり、それよりももっと胸の痛むことは、強制連行され、はるか遠い異国の地、この長生炭鉱まで連行されたことであり、さらにそれよりももっと胸が痛むことは、あのような若い年齢で、いえ、あのような幼い年齢で、まだこれからという一輪の蓄のまゝ、震えるような冷たい海の底へ没していかれたことです。

このような事実が六八年が過ぎた今日この日まで隠蔽しようとたくらむ者たちがいるという事実です。

ああ、悲しみで気が遠くなるほどに
ああ、憤りで気がくるうほどに
ああ、悔しくてやりきれぬ

今も安らかに目を閉じることができずにいるあなたがた！！

あなたが逝かれたその日！！

一九四二年二月三日！！

天も号泣し、地も慟哭しました。

あなたが逝かれて六八年がたちましたが、あなたの遺骨さえ捜し出すことができず、あなたの安息所をふるさとの山につくることもできない、親不孝者の息子と孫たちがやっと今日この日、やっとここにやって参りました。

あなたが逝かれて六八年がたちましたが、あなたの命をかけた崇高な遺志をくみとることもできずにいる親不孝者の息子と孫たちがやっとここへやって参りました。

あなたが逝かれて六八年がたちましたが、あなたの胸に悲しくわだかまっている恨（ハン）をはらすこともできない親不孝者の息子。

父よ、祖父よ！！

許してください！！

やっと気がついたのです。

やっと集ったのです。

これからはひとりで心を悩まして悲し

んだりしません。喜びも悲しみもともに分かち合える兄弟たちが集ったのです。もう寂しくはありません。あなた方がたまらなく寂しかったでしょうこの地にも、私たちと同じ兄弟姉妹たちがおつまじく暮らしてきています。

父よ、祖父よ！！

いまなお安らかに目を閉じることのできないあなたがた！！

もはや一握りの土と成ってしまったでしょう変わり果てたあなたの方の遺骸を、ふるさとの山にふりまくことのできるその日まで、氷のように冷たい海の底ではありませんが、あなた方を愛する息子や娘たちを信じて、どうか辛抱してください。

しずかにお眠りください！！
安らかにお眠りください！！

二〇一〇年一月三一日

長生炭鉱水没犠牲者大韓民国遺族会

代表 楊 玄 拝

